

平成29年度 学校評価報告書(目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月17日実施)	総合評価(3月30日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒一人ひとりの学習や進路等の目標の実現に定めるため、単位制の利点をいかした年次進行を基調としたカリキュラム・マネジメントに学校全体で取り組み、学力を育成する。</p> <p>②学び直しや生徒が互いに学び合う学習活動を取り入れるなど、知識・技能の習得のみならず、それらを活用する力を育む魅力ある授業を展開し、生徒の主体的に学ぶ意欲を高める。</p>	<p>①単位制の特性を生かしながら、生徒のニーズに合ったカリキュラムづくりに学校全体で取り組む。</p> <p>②「生徒が互いに学び合う学習活動」の実践に努めるとともに、生徒の主体的に学ぶ意欲を高める組織的な授業づくりを推進する。生徒による授業評価等を活用し、学習効果目標を共有する。</p>	<p>①生徒の学力や進路実現を踏まえ、カリキュラムを生徒にわかりやすく、かつ、選択しやすいものとする方向性を示すことができるようにする。</p> <p>②授業研究を行い、その結果を各教科会において検証し、さらなる授業の最適化を目指す。また、「生徒による授業評価」の集計結果をもとに、各教科で改善策等を協議し、実践する。</p>	<p>①生徒のニーズを把握し、カリキュラムの最適化に向けた検討が進められたか。</p> <p>②「生徒による授業評価」の集計結果を教科会で十分検討し、教科会での最適化すべき点を明確化し、評価を上げることができたか。</p>	<p>①単位制の特性を生かしながら、生徒のニーズに合ったカリキュラムづくりに学校全体で取り組むことができた。</p> <p>②「生徒による授業評価」の集計結果をもとに教科会で検討、分析を速やかに行った。評価4の割合は、全ての項目において神奈川県平均(H28年度)を上回っており、良好な結果であった。</p>	<p>①生徒のニーズを把握し、カリキュラムの最適化に向けた検討を行い、平成30年度の教育課程編成を決定した。新学習指導要領の導入に向け、次年度以降更に検討を進めていく必要がある。</p> <p>②授業研究週間の取り組みや、「生徒による授業評価」の結果の分析を元に、生徒が主体的に学ぶことのできる授業づくりをより一層推進する。</p>	<p>○「生徒による授業評価」は良い結果であり、生徒が主体的に学ぶ授業への改善が図られている。</p>	<p>①生徒のニーズを的確に把握して、現段階におけるカリキュラムの最適化を図ることができた。新学習指導要領の導入に向けた検討を併せて進めていく必要がある。</p> <p>②「生徒による授業評価」の結果では、良好な評価を得ることができた。これからの時代に求められる力をつけさせることができるよう、新学習指導要領の内容も勘案しながら授業改善を進める必要がある。</p>	<p>①面接・ガイダンスで生徒のニーズの把握にこれまで以上に努め、単位制の特性を生かした柔軟なカリキュラムづくりに学校全体で継続的に取り組む。</p> <p>②授業研究週間の取り組みを充実させ、教科の枠を越えてよりよい授業づくりを検討し、実践する。</p>
2 生徒指導・支援	<p>①学校行事・生徒会活動・部活動をさらに活性化させ、豊かな人間性や社会性を培う。</p> <p>②基本的な生活習慣を確立し、一人ひとりの生徒にきめ細かく対応するとともに、生徒一人ひとりの抱える課題を踏まえた適切な支援を行う。</p>	<p>①学校行事・生徒会活動・部活動等を通して、心豊かで他者を思いやる人間性をはぐくむとともに、社会貢献やボランティア活動の一層の推進を図る。</p> <p>②学校生活の各場面において、円滑な社会参加に向け、基本的な生活習慣を確立し、社会の一員として自立できる規範意識や公正な判断力をはぐくむ。</p>	<p>①学校行事では、行事を精査しながら生徒が主体的に取り組めるようこれからも根気強くサポートを継続していく。また、学校として組織的な体制を作り、行事を計画する。</p> <p>②基本的な生活習慣の確立を目指し、指導方針の周知を徹底する。また、支援を要する生徒についての把握に努め、適切に対応する。</p>	<p>①生徒の主体的な活動を適正にサポートし、生徒の自立する力を育み、各行事欠席率を減らすことができたか。</p> <p>②指導方針についての周知を徹底し、ぶれのない生徒指導を継続的に行い、再発指導件数を減少できたか。支援を要する生徒を組織的に支援することができたか。</p>	<p>①学校行事では、生徒会本部を主体とした運営を実現するためのサポートができた。中でも体育祭では前夜祭を開催するなど活性化に努め、生徒参加率も10ポイント以上上昇した。</p> <p>②生徒指導での特別指導対象者・件数ともに大幅に減少しており、指導方針が浸透したものと考えられる。また、月に1度以上のケース会議の開催や鎌倉養護学校との連携などにより組織的な生徒支援の方策も実現しつつある。</p>	<p>①生徒数減に伴い、一部を除き部・同好会の活動が停滞しつつある。新入生へのオリエンテーションや「部活動再チャレンジ週間」の強化など、さらなるテコ入れが必要である。</p> <p>②改訂された「いじめ」の定義について、職員間で共有し、ぶれのない指導方針を確立する必要がある。支援を要する生徒には、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどを有効に活用し、外部とのさらなる連携を模索していきたい。</p>	<p>○体育祭は活気があり、生徒が楽しんでいった。部活動は少ない活動時間のなかでもよく取り組み、各種大会でもよい結果を残している。</p>	<p>①学校行事では生徒会本部へのサポートを通じて活性化を図ることで、生徒の主体的な活動に結び付けることができた。生徒数が減少する中で、部活動も含めた活性化を検討する必要がある。</p> <p>②指導方針が教員・生徒に浸透し、ぶれのない指導を行えたことで、特別指導件数を大幅に減少させることができた。支援を要する生徒を的確に把握する方策や組織的に支援する方法を、外部との連携を含めて構築していきたい。</p>	<p>①生徒の人間性や社会性をはぐくむために、ガイダンスやオリエンテーションの充実を図り、生徒会活動をアピールする。</p> <p>②鎌倉養護学校との連携を深め、困り感をもつ生徒の洗い出しについて研修するとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどを活用した的確な支援の方法を検討する。</p>

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月17日実施)	総合評価(3月30日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3 進路指導・支援	①生徒が社会的・職業的に自立することをめざした学校づくりに取り組む。 ②卒業と進路希望の実現に向けたきめ細かい指導に取り組む。	①生徒が社会的・職業的に自立するため、キャリア教育を充実させ、進路の「自己実現」を支援する。 ②卒業に向けた履修指導と進路実現のための進路支援を充実させる。	①年次主体になりがちな進路指導を外部機関との連携や生徒情報の共有化により組織的に進める。 ②面談週間を履修指導にとどまらず、進路支援の機会としても活用する。	①進路指導を組織的に進め、生徒一人ひとりの適性や能力に応じた支援体制を確立できたか。 ②面談週間については履修指導にとどまらず、進路支援の機会としても機能させられたか。	①進路説明会を2年次から対象とするなど組織化を図り、生徒のキャリア意識向上に向けた体制作りを進めた。 ②面談週間において生徒一人ひとりの進路希望を聞き取ることで、進路支援の充実を図ることができた。	①外部機関との連携にはまだ課題が残っている。情報を充実させるためにもさらに連携を進める必要がある。 ②進路決定率は昨年度より上昇したものの、就職等の進路希望がかなえられていない生徒がいることが課題である。	○前年度より卒業生の人数は少なかったが、大学進学者数は同じであった。様々な進路希望の生徒がいるが、今後も一人ひとりへの支援を充実してほしい。	①進路指導体制の組織化を進め、生徒のキャリア意識を高めることができた。今後は生徒に提供できる情報充実を図っていきたい。 ②能力や適性が多様化する生徒の状況を見極め、その特性に合った進路を見だし、進路決定率を高めることが重要である。	①キャリア教育の充実を図り、外部の力も活用して、生徒一人ひとりのキャリア意識を高めていきたい。 ②面談週間における進路支援体制のさらなる充実を図るとともに、教員間の情報交換も密にし、生徒の能力・適性的な確かな把握に努める。
4 地域等との協働	①地域との協働・連携による開かれた学校づくりを目指す。	①ホームページや学校説明会等の広報活動の内容をさらに充実させ、開かれた学校づくりを一層進める。	①生徒及び保護者、中学生とその保護者など、中心となる閲覧者のニーズを踏まえた情報提供となるようホームページ等を改善する。	①生徒及び保護者、中学生とその保護者など、中心となる閲覧者のニーズを踏まえた情報提供を機に応じて行い、迅速かつ的確な情報を伝えることができたか。	①生徒及び保護者、中学生及びその保護者等に対して、ホームページのこまめな更新と正確で理解しやすい情報発信を行うことができた。また生徒に対しては、ツイッターやまちcomiメールも活用して緊急時の連絡を行った。	①ホームページの更新・作成に迅速さを欠く面があった。今後は業務アシスタントや外部人材の協力も視野に入りたい。ツイッターのフォロワーが伸びていない現状にあるので、ツイッター活用のための宣伝をしていく必要がある。	○学校から保護者への配付文書がホームページでも確認できるようになってよかった。手軽な連絡手段であるツイッターやまちcomiメールの利用者が増えるといい。	①ホームページやツイッターの活用などにより、学校の情報を的確に発信することができた。今後はさらなる迅速化と理解しやすい情報発信を進めることが必要である。	①わかりやすい情報発信のために情報収集の適正化を図りたい。また、ホームページやツイッターの迅速な更新に向け、業務アシスタントや外部人材の協力を得ることも検討する。
5 学校管理 学校運営	①社会から信頼される学校づくりを推進し、事故・不祥事の防止を徹底する。	①事故・不祥事防止について不断の意識徹底を図り、事故・不祥事の根絶に努めるとともに、保護者、県民にも丁寧に対応する。	①日常業務で注意意識が薄れぬよう、定期的な事故不祥事防止会議を開催する。	①事故不祥事防止会議を適正に実施し、事故不祥事をなくすことができたか。	①月に1回、事故・不祥事防止会議を開催し、職員の事故防止につなげることができた。	①今後も事故・不祥事防止に向けた職員の意識を継続できるよう、不断の努力をしていく。	○避難場所にも指定されており、生徒及び地域のための防災への取組みを推進してほしい。	①事故・不祥事防止会議を定期的に開催し、職員の意識向上につなげることができた。今後も継続的に防止会議を開催する。	①事故・不祥事の未然防止に向けた防止会議を定期的に開催し、職員の意識の徹底化を図る。